

# 「ふくしまの今を語る人」講演リスト

令和4年7月1日  
福島県消費生活課

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
1	カゲイ マナミ 景井 愛実 	<p>◆女性の感性と新しい連携でつなぐ農業 【農業・商品開発・発信】</p> <p>(元アパレル職である自分が結婚を機に農業に携わり、震災を経験し、農の尊さに気づき守るために模索してきた13年。見えてきたものと目指すことを女性視点からお話いたします。)</p> <p>Berry's garden代表。農水省農業女子プロジェクトメンバー。2007年福島県の果樹農家に嫁いだのをきっかけに農業に携わる。震災を契機に農業と向き合い、2017年に「Berry's garden」を設立、福島の農産物の商品開発・発信部門を展開。福島の農産物を世界中に届けるため奮闘中。</p>
2	キツナイ ヨシトモ 橋内 義知 	<p>◆ふくしまが好きだから。～果樹園の現場から～ 【農業・果樹園】</p> <p>(果物をおいしくと食べてくれる人たちのために、誇りと自信を持って作り続けている。なぜ福島が好きなのかと震災後の取り組み、そして絵本づくりについての想いを語ります。)</p> <p>果樹園きつない代表 福島市出身。大学、社会人時代(中央市場セリ人)を横浜で過ごす。2010年結婚と同時に福島へ戻り就農。震災後より地元の先輩、仲間と共にふくしま土壌クラブを設立、福島県産果実の復活を目指す(現ふくしま土壌ネットワーク副代表)。</p>
3	サイノウ ノボル 齊藤 登 	<p>◆ふくしまの農業の再生から全国に【農業・米・きゅうり・野菜・販売ルート開拓】</p> <p>(震災により福島県農業に何が起き、どう立ち向かってきたか。そして、今、目指すものは？福島第一原発から50キロ。米と野菜の専業農家が、現場から生の声を届ける。)</p> <p>二本松市出身。県を中途退職し農業へ。NPO法人がんばろう福島、農業者等の会代表。震災直後より、首都圏等で風評被害を乗り越える直販活動を展開。</p>
4	サトウ ヒロミ 佐藤 宏実 	<p>◆毎週日曜、開催！作る人と買う人をつなぐ青空市場“GoodDayMarket”【農業】</p> <p>(震災前までは、京都にある日本料理屋「京都吉兆」10年勤務。そこで福島の食材の美味しさを再認識。震災後福島に戻り、福島の食と農の素晴らしさをPRする活動に取り組み続ける。)</p> <p>福島市在住、青空市場の運営や野菜の移動販売、まちなか野菜直売所「お百姓屋」の運営、2018年より参加型無農薬無肥料米生産に取り組み。自然栽培の野菜・果樹・花卉栽培にも挑戦中。一般社団法人GDMふくしま代表理事</p>
5	スズキ マサミ 鈴木 正美 	<p>◆福島県農業の現場から見える課題とこれから【農業・米・販売ルート開拓】</p> <p>(原発事故前後農業を取り巻く環境や人口減少や高齢化、原発事故後の風評被害に地域がどう取り組むのか。「現場」の人々の前向きな活動と声を伝える。)</p> <p>矢祭町出身。農業法人でんぱた取締役。産学官連携の精密農業(土壌センサーポストの設置等)実践や農産物の県外直販、高齢者見守り活動等を展開。</p>
6	セキ 元弘 関 元弘 	<p>◆いつまでも続いていける人と環境に優しい農と暮らしを目指して【農業・米・野菜】</p> <p>(原子力災害により一気に加速した農業・農村の衰退という危機的状況を突破するため、「楽しく」かつ「真面目」に様々な取り組みをしている元役人夫婦の話。)</p> <p>東京都赤羽出身。夫婦共々元農林水産省役人。有機農業、酒類製造業、両者を活用した都市農村交流(アルコールツーリズム)に取り組む。</p>
7	タキタ クニオ 滝田 国男 	<p>◆農業体験者実践者が語るふくしまのいま【農業・販売ルート開拓】</p> <p>(日本の「食」の大切さ素晴らしさを、農業体験からと実践。首都圏の多くの人々との出会いが生まれた。震災後に足が止まった体験者も、徐々に復活。その過程でのやりとりを語る。)</p> <p>白河市(旧表郷村)出身。合併前の表郷村最後の村長。米農家。震災後、新たに農産物の生産会社を設立。安心な食材を通して、農業の将来像づくりに励む。</p>

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
8	 <p>タダノ タダヒ 但野 忠義</p>	<p>◆酪農、乳業での安全、安心を求めて【酪農】</p> <p>(政府より生乳出荷停止を受けて、再出荷から不検出(ND)を守り続けている酪農、乳業の取り組みを酪農家、そして元組合長の視点から伝える。)</p> <p>南相馬市出身。酪農家。元福島県畜産振興協会長、元県酪農業協同組合組合長。避難中の酪農家支援。乳牛580頭が飼育可能な「復興牧場」整備に着手。</p>
9	 <p>テラヤマ サチコ 寺山佐智子</p>	<p>◆ふくしまから始まる SHINSEKIプロジェクト 【農業・果樹・民泊・6次化】</p> <p>(農業という舞台を通じて、人と人を繋ぎ、食を伝え、人生を豊かにする「SHINSEKIプロジェクト」という新しい農業の仕組みをお伝えします。)</p> <p>(株)阿部農縁 代表 須賀川市の農家生まれ。1989年から2007年まで公立岩瀬病院にて看護師・ケアマネージャーとして勤務。その後就農。震災後6次化を積極的に進め2012年12月法人化。食と農と人で元気を届ける活動を進めている。</p>
10	 <p>ニイツマ リョウヘイ 新妻 良平</p>	<p>◆原発30キロ圏内の米づくり農業の現場から【農業・米・有機栽培】</p> <p>(専業農家になった経緯や取り組み、原発事故後の変容を紹介しながら新たな出会いや農業を続ける「想い」を伝える。)</p> <p>広野町出身。専業農家、県指導農業士。(株)新妻農園代表。広野町農産物加工施設代表、同直販所組合長。避難町民にとっての買い物・交流の場を運営。</p>
11	 <p>ハセガワジュンイチ 長谷川純一</p>	<p>◆人と種を繋ぐ会津伝統野菜【農業】</p> <p>(先人たちが守ってきた歴史ある会津伝統野菜を通して、人と種を繋ぎ、伝える活動を紹介する。ふくしまの食文化を重んじる専業農家の話。)</p> <p>会津若松市出身。専業農家。会津農書を語り継ぐ会の会長。伝統野菜を通じて復興を世界へ発信。会津小菊かぼちゃの種まき・苗移植をスペインで実施。</p>
12	 <p>ハッタ ケンイチ 八多 宣幸</p>	<p>◆水産業の復興に向けた取り組みについて【漁業】</p> <p>(津波被害からの復旧。魚介類への放射能影響と試験操業の展開。今後の本格的な再開に向けた取り組みと展望を伝える。)</p> <p>福島市出身。(前職:福島県漁業協同組合連合会災害復興プロジェクトチームリーダー)産地市場での検査体制の整備と安全性の発信。</p>
13	 <p>フジタ コウジ 藤田 浩志</p>	<p>◆魅力たっぷり！福島の農に生きる【農業・米・野菜】</p> <p>(「ふくしま」で生きる農家として、震災後何を考え何を実行したか。数多くの方との出逢い・対談から何を見出し、何を学んだかを伝える。)</p> <p>郡山市出身。農家8代目後継者。日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエプロ。生活者と農業者の架け橋を目指し、市内農家有志と共に多彩な活動を展開。</p>
14	 <p>ミウラ ヒロシ 三浦 広志</p>	<p>◆原発事故からの浜通り地方の地域復興と農業の再生【農業の再生】</p> <p>(震災・原発事故後に取り組んできた農地の復旧や農業の再生、米の全袋検査を始めとした放射能測定事業、太陽光発電の拡大やそれを活用した避難地域の再生などを紹介する。)</p> <p>新地町在住。農事組合法人浜通り農産物供給センター代表理事。特定非営利活動法人野馬土代表理事。南相馬市小高区井田川から避難、半農半エネで避難元の農業の再生に取り組んでいる。</p>
15	 <p>モミヤマ トモミ 縦山 智美</p>	<p>◆おいしい果物と大好きな福島と家族と共にある幸せな農業【農業・果樹園・直販店経営】</p> <p>(菅野果樹園の長女として20代で就農。福島を代表する果物の美味しさと震災後の取り組みや家族と共に夢をカタチにしていく農業の楽しさを伝える。)</p> <p>縦山果樹園 福島市大笹生の農家生まれ。農家へ嫁ぎ、夫婦で果樹園を営夫と共に20年来の夢を叶え『人が幸せに集う』直売所openし、経営。</p>

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
16	ヤマギワ ヒロミ 山際 博美 	<p>◆「食」を通してふくしま復興へ【郷土・料理人】</p> <p>(福島県農産物の現状や活かし方、地域で6次化の商品開発を行うために必要な極意など、県内外で活躍中のシェフが説明する。)</p> <p>郡山市出身。(株)山際食彩工房代表。ヴァイナワシロ調理顧問。「あいづ食の陣」実行委員長。「地産地消の仕事人」。地域産業6次化総合アドバイザー。</p>
17	ヤナイ タカユキ 柳内 孝之 	<p>◆水産業の復興と賑わい拠点としてのまちづくり【漁業】</p> <p>(大震災と原発事故による被災からの復興と現状及び地域の発展への関わりを、福島県最大の港、小名浜港に立地する小名浜魚市場や地場の漁業を中心に紹介する。)</p> <p>いわき市出身。小名浜機船底曳網漁業協同組合 理事。2010年より福島県漁業協同組合連合会 理事を兼務し、震災後、福島県の漁業の復興に尽力。</p>
18	ユダ ヒロカズ 湯田 浩和 	<p>◆震災と同時にスタートした農産物加工【農業・6次化農業】</p> <p>(震災発生数か月前に取り組みが始まった農産物加工。当時の状況に加え「福島=苦しんでいる」というイメージを払拭したく、今後の展望を前向きな想いと共に伝える。)</p> <p>南会津町出身。「土っ子田島farm」を通じ花卉栽培、農産物加工(ジュース・ジャム)、味噌等を製造販売。脱サラ・Uターンの後、地元で6次化推進を牽引。</p>
19	ヨシナリ クニイチ 吉成 邦市 	<p>◆「天栄米」日本一の米作りを目指して【農業・米】</p> <p>(震災後に受注契約が全解除、いち早く対策に取り組んだ。国際コンクールで6年連続の「金賞」を受賞。回復の裏にある「日本一美味しい米作り」への諦めない努力と熱い想いと。)</p> <p>天栄村出身。「放射能ゼロ」を目標に、農家を励ましコメ作りに取り組む同氏の姿を追ったドキュメンタリー「天に栄える村」が各地で上映。</p>
20	ワタナベ トミコ 渡邊 とみ子 	<p>◆諦めない心で立ち上がる女性の力でふくしま福幸を【農業・6次化農業】</p> <p>(飯館村での活動を通して原発災害でも諦めない心で「かーちゃんのカプロジェクト」や農業に取り組む姿を紹介する。)</p> <p>福島市出身。「いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会」会長。元NPO法人かーちゃんのカプロジェクトふくしま理事。イベントを通して元気発信。県産品発信団体を設立。</p>
21	ヤカズ ミサコ 矢数 美里子 	<p>◆小名浜伝統製法の秘伝のたれ「味丸黒干®」のブランディングと販路開拓、継承の想い【漁業・加工品・販売ルート開拓】</p> <p>(小名浜発祥のさんまみりん干しのはじまり。震災後、地元の名産品だけではなく全国に広める活動。秘伝のたれを継承するためにブランディング開始。)</p> <p>いわき市出身。合資会社カネキ商店代表社員。70年以上継ぎ足し続ける秘伝のたれ「味丸黒干®」で黒干を製造販売。震災後生産者自ら営業活動を展開。</p>
22	カワセ ヒロシ 川瀬 洋 	<p>◆「食えば分かるさ」福島(ふくしま)の魚！！【水産業・加工販売】</p> <p>(被災した相双地域の漁協復興までの9年間の思いと漁協スタートからの取り組み、そして未来につながる福島の水産について伝える。)</p> <p>二本松市在住。マルカワ水産役員。飲食店業、水産物卸業、水産物加工販売業、市場仲買人。相馬双葉漁業協同組合員。</p>
23	サトウ リョウイチ 佐藤 良一 	<p>◆被災地域での農業の復興、スマート農業を駆使し若手社員の人材育成、大規模土地利用型農業を展開【農業・スマート農業・人材育成】</p> <p>(震災後、2012年警戒区域でいち早く水稻の試験栽培を開始、品目を増やして栽培を継続。2017年紅梅夢ファーム設立。農水省スマート農業実証プロジェクト採択。現在110haを経営。)</p> <p>南相馬市小高区在住。専業農家の9代目。旧小高町議会議員、南相馬市議会議員、南相馬市農業委員を歴任。稲作を中心として野菜や菜の花を生産する(株)紅梅夢ファーム代表取締役社長。平均年齢27歳と若手社員が活躍している。</p>

No.	講師氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
24	アベ タカヒサ 阿部 峻久 	<p>◆福島の漁業のこれまでとこれから【水産業・販売ルート開拓】</p> <p>(福島県沖で獲れる“常磐もの”と呼ばれる魚は、築地市場において高値で取引をされてきたが、震災により、漁港が全壊。2021年には、試験操業から本格操業へと移行したが、水産業の復興は、まだまだこれから。水産業の現状や常磐ものの魅力について紹介する。)</p> <p>いわき市在住。合同会社はまから代表。いわき市の産業支援機関にて起業支援や中小企業に係る補助金業務等に従事してきたが、全壊した久之浜漁港の復興をめざし2020年に魚屋を立ち上げ独立。現在、仲買人として鮮魚出荷・商品開発や、漁師の担い手育成事業等を行っている。</p>
25	ホシ イフオ 星 巖 	<p>◆里山づくりに励む【農業・民泊】</p> <p>(農家民宿の経営、里山づくりに携わるようになった経緯や今の思いを、原発事故後の暮らしの変容、仲間達との取り組みを織り交ぜながら紹介する。)</p> <p>南相馬市在住。東日本大震災時には被災地の市役所職員として避難所を運営。南相馬市役所職員を早期退職し、農家民宿を経営。現在は、民宿周辺の里山づくりに励む。</p>
26	サイトウ ユウコ 齋藤 由美子 	<p>◆“もったいない”こそ価値あるブランド～完熟桃で商品開発～【農業・商品開発・発信】</p> <p>(おいしいのに出荷できない完熟桃に着目。桃の魅力を通年楽しめる商品を開発。フードロス無くし、農家と共に福島のブランド力を発信。)</p> <p>福島市在住。(株)ももがある代表。ゴスペルディレクター。桃をメインとした農産加工品を販売しながら、全国・世界へ赴き福島の食文化を伝える。</p>
27	カウ エミ 加藤 絵美 	<p>◆農地を守り新たな文化をつくる、フリースタイル農家の挑戦。【農業・米・野菜・商品開発・発信】</p> <p>(震災を機に福島を、農業をなんとかしないと、と奮起。関わって手を差し伸べてくれた方々への感謝と恩返しをエネルギーに変えて挑戦してきた事、想いを伝える。)</p> <p>フリースタイル農家。株式会社カトウファーム専務取締役。B-eatJAPAN(食のイベント企画)代表。YellowBeerWorks(クラフトビール)オーナー。2009年に就農し4人の子供を育てながら、農業、加工、醸造に携わる。農水省の委員などを経て講演や海外でのイベントも多数。</p>
28	アキ 亜貴 ボンド 亜貴 	<p>◆世界から見られるFUKUSHIMAから、FUKUSHIMAから世界へ発信する農業へ【農業・6次化農業】</p> <p>(ヨーロッパで過ごした経験を基に、オーガニックで植物や動物を育てることの意義とその美味しさを実感。FUKUSHIMAだからこそ、持続可能な世界を作る可能性があると感じる。)</p> <p>会津若松市在住。Bond&amp;Co.代表。13年間ポーランドやイギリスで過ごす。震災を機に帰国。現在父が始めたアイガモ農法を引き継ぎ有機米を栽培、そのお米でお酒を委託製造して販売している。日大工学部やその他のコラボレーションで活動の環を広げている。</p>

### 【問い合わせ窓口】

◆株式会社 J T B 福島支店 福島サテライト  
〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル4階  
メール：fukushimanow@jtb.com FAX：024-522-2980 TEL：024-523-3314

◆事業実施者：福島県消費生活課  
共 催：消費者庁